

横浜市少年野球連盟学童部 大会規定

1 大会適用規則

『公認野球規則』(最新版)、『競技者必携』((財)全日本軟式野球連盟)及び「大会特別規則」を適用する。

2 打順表の提出と攻守の決定

- (1) 試合会場到着後、本部にて受付を済ませ速やかに登録選手すべてを記載した打順表3通(控え選手を含む全ての名に必ずふりがなを付すこと)提出のこと。登録原簿との照合を受けた後に、審判員立ち会いのもとに攻守を決定する。(前の試合4回終了もしくは終了30分前を目途に行う)
- (2) 登録参加申込書提出(監督主将会議)後、選手の変更・追加及び背番号の変更は認められない。
- (3) 試合中ベンチに入りできるのは、次の通りあらかじめ登録参加申込書に記載された人員とする。
代表者1名、監督1名、コーチ2名以内、スコアラー1名、マネージャー1名、選手10名以上20名以内(各区対抗選抜大会は25名以内)とする。
尚、試合前申告により「給水係り」のベンチ入りを認める。ベンチ入り条件は後述。
選手以外のベンチ入り資格者は、成人とする。
- (4) 遅れるか、10名人数が揃わないか、その他の理由で試合開始時刻になっても試合のできる状態をとれないチームは、原則として棄権とみなす。
(注) 前の試合が早めに終了したとき、次の試合開始予定時刻前でも試合を開始する場合がある。
- (5) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。

3 大会特別規則

- (1) 試合は6回戦とする。ただし、試合開始後1時間30分を経過した場合は正式試合となり、新しいイニングに入らない。同点で終了したときは、抽選により勝敗を決定する。
(但し、大会運営上、準決勝戦以上はタイブレークを行なう場合もある)
- (2) 試合が6回を終了して同点時に、試合開始後1時間30分を経過していないときは、タイブレーク(条件付)を行なう。
- (3) タイブレーク
継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁の走者は順次前の打者とし(投手・捕手は除いてもよい)無死1・2塁の状態にして1イニングを行ない、得点の多いチームを勝ちとする。
タイブレーク1イニングで勝敗が決しない場合、1時間30分以内ならば2イニングまで行なう。
尚、同点の場合は抽選により勝敗を決定する。
- (4) 降雨その他の理由による正式試合(コールドゲーム)となる回数を5回とする。
- (5) 得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。

(6) 特別継続試合

試合が1回以降5回以前に中止になった場合（ノーゲーム）、又は5回を過ぎ正式試合となって同点の場合（タイゲーム）でも再試合にしないで、後日特別継続試合として、元の試合の中断された個所から再開する。

両チームの出場選手と打撃順は試合が中断された時と全く同一でなければならない。

但し、規則によって認められる交代は許される。

また、中断前の試合に出場して、他のプレーヤーと交代しその試合から退いたプレーヤーは、再開される試合に出場できない。投手の投球数は、元の試合で投じた球数を引き継ぎ、70球制限を適用する。

中断前後の試合と通算して1時間30分を経過したら、新しいイニングに入らない。

(7) 監督に限り、グラウンドに出て交代等の指示などをすることができる。

(但し、インプレー中にベンチからむやみに出ての指示は慎むこと)

(8) ルール適用等の抗議できる者は、監督と当該プレーヤーとする。

(9) 公認野球規則 5.10 (d) [原注] の前段の規定は適用しない。

したがって、投手の守備位置の 交代は自由である。

(10) 投手の投球数制限

1試合の、一人の投手が投球できる投球数を「70」球とする。

運用については全日本野球連盟の指針および競技者必携（44頁）2. 競技に関する連盟特別規則8項の規則を適用とする。

(11) 頭部死球があった場合、状況の如何にかかわらず臨時の代走（コーティシーランナー）を適用する。死球を受けた打者は1塁に触塁することなくベンチで治療・休息をとる。コーティシーランナーは前位の打者とし、投手及び捕手は除いてよい。

尚、走者に送球等が当たり、治療・休憩が必要と審判が判断した場合、同様の適用とする。

(12) 「給水係り」の条件

①選手保護者（女性）2名以内、②神奈川県野球連盟推奨の専用ビブス及びチーム帽を着用のこと。

※スポーツ活動に相応しい服装・シューズ着用を心掛けること。尚、ベンチ内の役割は選手の体調保全に努め、スマホ等での撮影やスコアブック記入等の行為は行わないこと。

4 用具・装具

(1) 用具

(イ) 使用球

大会使用球は、連盟公認のJ号ボールとし、大会本部で用意する。

(ロ) ユニフォーム

ユニフォーム、アンダーシャツ等は同色、同形、同意匠のものを使用する（必ずストッキング、アンダーストッキングを着用すること）。但し、各区対抗選抜大会は、この限りではない。

（各所属チームそれぞれのユニフォームにて参加を認める）

尚、エクストラパンツのユニフォームは禁止する。

(ハ) バット

- ① 金属・ハイコン（複合）バットは、連盟公認（J S B B）のものに限る。
- ② 球場内に素振り用パイプ・リングを持ち込まないこと。
- ③ 試合中、ノックバットはベンチ外に出すこと。

(2) 装具

(イ) ヘルメット

- ① 打者、次打者、走者、ベースコーチ及びバットボーイ、ボールボーイまたはバットガール、ボールガールは、両側にイヤーフラップおよび安全マーク（S G）のついた連盟公認（J S B B）のものを着用すること。
- ② 捕手は安全マーク（S G）のついた連盟公認（J S B B）捕手用ヘルメットを着用すること。

(ロ) マスク

安全マーク（S G）のついた連盟公認（J S B B）のものを使用すること。
尚、頸部防護用のスロートガードを装着していないマスクは使用できない。

(ハ) レガーズ・プロテクター・ファールカップ

捕手はレガーズ・プロテクター・ファールカップを着用すること。
ファールカップは、攻守を決める際に持参しチェックを受けること。

(ニ) サングラス

サングラス使用は、本部の承認なしに使用できる。但し、ミラーレンズは除く。
(競技者必携72頁「用具・装具に関する事項」3項を参照)

5 試合のスピードアップに関する事項

- (1) 攻守交代は出来るだけ迅速に行うこと。ボールは投手板近くに置いて交代すること。
第3アウトが成立したら、守備側の選手は素早くベンチを離れ、守備位置に向かうこと。
特に、バッテリーは、準備投球があるから率先してベンチから出ること。
- (2) 各回の先頭打者と、次打者及びベースコーチは、ミーティングに参加しないで、直ちに所定の位置につくこと。
- (3) 捕手は、投球を受けたらその場から投手に返球すること。
- (4) 投手は、捕手の返球を受けたら、直ちに投手板について投球姿勢をとること。
- (5) 打者は速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。
- (6) 次打者は、次打者席で低い姿勢で待機すること。投手も必ず実行すること。
- (7) 打者は、打者席内でサインを見ること。
- (8) 野手が負傷などで治療が長引く場合及び頭部等に打球や送球が当たって、安静を要すると判断された場合等は、速やかに交代させることが望ましい。

6 その他

- (1) ファールボールは、1 塁側のものは1 塁側ベンチ、3 塁側のものは3 塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理すること。
- (2) 試合終了後は速やかにグラウンド整備を行なうこと。
※グラウンド整備は、試合中のベンチ内指導者とし、ユニフォーム着用者が率先すること。
- (3) 球場（公園内）では、無用なトラブルを起こさないよう大会本部の指示に従い言動に注意すること。
- (4) 監督・主将会議で決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。
- (5) 球場内ではトスバッティング、フリーバッティング及びバント練習は許されない。
グラウンド内での練習時、選手とコーチのキャッチボールは禁止する。
- (6) 試合開始、終了の挨拶時には、代表者・監督・コーチ・スコアラー・マネージャーも自軍ベンチ前に整列し、あわせて挨拶すること。
- (7) 準決勝で勝利したチームは、グラウンド内で第3位の表彰式に参加すること。
- (8) 電子機器類（スマホ・パソコン等）のベンチ内使用を禁止する。

【令和5年8月26日改訂】